

たいです。子供が少ないため登校も少人数登校になつてしまいいとも不安です。もう一度通学路を見直してもらいたいと思います。そして、病院などの医療機関を充実したものにしたいです。安心して暮らせる町になるように心から願っています。子供達を守ってください。(女、30歳代)

●川根町の様に、温泉や、文化会館イベント(コンサート、お笑いライブ等)。町外から人を集められる町をつくってほしい。(女、30歳代)

●町営バスについて、乗せていただく度にほんとに有難く思います。車の運転の出来ない人にとつてはどんなに嬉しい事か。赤字がわかつていて運行している行政に感謝しています。(女、70歳代)

●2〜3年のことしか考えていないようにみえる。たとえば、子供の数がこんなに少ないのに、小学校が旧中川根に3つもある。小学校は町で2校、中学校は1校で十分。地域住民は「近くに学校を残すように」いうであろうが、町全体のこと、教育のことを考えて「政策」としてどうするかを考えるのが町・教育委員会の仕事である！若者が町にもっと残る、呼びよせることを考えなければ町の未来はない。限られた予算をもっとうまく使っていないとムダが多すぎる。町の人口に対し、役場職員が多すぎ、人件費を削り、他の政策にまわすべき。(男、40歳代)

●町を活発にするためには、夏祭りなどの祭りごとは大事だと思う。(男、10・20歳代)

●ひと言で言ってしまう、全く魅力のない町です。子供を育てるには、良い環境であるとは思いますが、交流もなければ、施設も無い。親同士の交流も無い。中高一貫教育とあるが、高校卒業後、働く職場も無

い。働きたくなるような会社も無い。賃金が安い。町へ通うにも、交通不便である。(女、30歳代)

●中川根と本川根が合併して何が変わったんですか。メリットがあるのかわかりません。川根本町はどのような町づくりをしていくのか具体的な方針を知らないけど、今のままだと町全体がさびれていく。働ける場所を増やしてほしい。(女、10・20歳代)

●小さな規模の自治体です。小さくてもピリツとした骨のある集合体である様に頑張りたいと思います。有名無実にならぬ様に小さくとも光り輝く村で有る様、町民一丸となって頑張りたい。(男、70歳代)

●難しい事はわかんないけど、ここが好きで住んでるから、不便なのは昔から多々あって、でも発展よりも今ある物を大事にしたいってほしい。ケド改善は必要だし、もり上がってくのはいい事だ。あと、連休の時の交通規制、理由はわかるけど、仕事してる側にとってはメイワーカーそれなら早く、橋を作って下さい。(女、10・20歳代)

### ◇この町の生活環境について考えます

アンケート結果で見るとこの町のイメージは、「住み良くて、愛着があり、住み続けたい町」との回答が大半を占めます。しかし「私の意見・提言」では、日常生活に不安を感じている意見が多く見られることも事実です。

全体に見られる傾向としては、高齢者の方ほど、この町に「愛着を感じている」と同時に「生活に大きな不安を抱えている」と言えます。

逆に、若い世代の人ほど「この町への愛着が薄く、就職などのきっかけで町を出る可能性が高い」傾向

にあります。

今、この町に住む人々にとって一番身近で、守るべきものが「日常生活の環境」です。

この守るべき「生活環境」に対して、不安な意見が数多く見られるという事実は、町の現状

を色濃く反映した結果であると考えられます。

「仕事が少ない」「医療・福祉が不安」「老後が不安」「娯楽が乏しい」「交通機関が不便」など、山あいの小さな町にとって、どれも大きな課題であり、今、行政が必死で取り組んでいる部分です。

しかし「自然が豊かで潤いがある」「近隣とのつき合いが活発」「住民健診・健康指導が充実している」など、小さな町だからこそその良い面も確実に存在しています。

今後、町の設計図となる「町総合計画」を策定していく上で、生活環境の改善や定住・交流人口の拡大を図るためには、いかに「住む人々の不安感」を取り除き、そして「この町の良い面」を対外的に示していけるか、が求められると考えます。

### 特集 ◆ シリーズ 住民アンケート結果 ①

「あなたは、この町が好きですか？」

